

学会記事

??

本学会の法人化に関するお知らせ

第 28 回通常総会開催のお知らせ

役員選挙

第 15 回論文賞および第 3 回解説論文賞

論文賞・ソフトウェア論文賞候補推薦のお願い

日本ソフトウェア科学会第 28 回大会開催案内・発表募集

2011 年度研究会活動予定

協賛イベント

??

第 22 回 IEEE ソフトウェア信頼性工学国際シンポジウムの開催

研究会開催通知・論文募集，チュートリアル開催通知，教員募集（教育機関以外の人材募集の場合は事前にご相談下さい）へ投稿される方は，下記宛に原稿をお送り下さい．電子メールの場合は，件名を“JSSST newsletter”としてテキスト形式をお願いします．紙面の都合により無断で記事の一部抜粋や割愛をさせていただくことがありますので予めご了承下さい．原稿締切は 2，5，8，11 月の 25 日，掲載は翌々月発行の「コンピュータソフトウェア」です．

〒113-0032 東京都文京区弥生 2-4-16 学会センタービル内

日本ソフトウェア科学会 ニュースレター係

E-mail: jssst_newsletter@jssst.or.jp

学 会 記 事

本学会の法人化に関するお知らせ

日本ソフトウェア科学会理事長

柴山 悦哉

本学会の法人化につきまして 2 月 15 日から 3 月 15 日まで学会ホームページ上で意見募集を行いました．

その結果を受けて理事会で検討した結果，意見募集ページに掲載された定款案に沿って法人化の作業を進めることといたしましたのでお知らせします．

なお，法人は第 28 回通常総会の開催前に設立し，この総会にて法人への移行に必要な議案を提出いたします．

第 28 回通常総会開催のお知らせ

日本ソフトウェア科学会理事長

柴山 悦哉

日本ソフトウェア科学会定款第 29 条により、第 28 回通常総会を以下のとおり開催いたします。

なお、総会の開催にあたっては定足数を要します(定款第 34 条)ので、別途郵送する総会出席案内への返信で、出欠のご連絡(欠席される場合の委任状のご提出を含む)をお願いいたします。

記

日 時：2011 年 6 月 9 日(木) 18:00 ~ 20:00

場 所：東京大学山上会館会議室 001 (地下)

議 題：議事 第 1 号議案 2010 年度事業報告
第 2 号議案 2010 年度決算報告
第 3 号議案 2011 年度事業計画
第 4 号議案 2011 年度予算
第 5 号議案 一般社団法人への移行についての基本方針
第 6 号議案 一般社団法人定款案
第 7 号議案 一般社団法人への移行に伴う事業譲渡
第 8 号議案 一般社団法人への移行に伴う当会の解散
その他

表彰 基礎研究賞の授賞

論文賞の授賞

解説論文賞の授賞

高橋奨励賞の授賞

役員選挙

2010 年度末で任期満了となる役員分(理事 7 名、監事 1 名)に対する選挙は、2010 年 12 月 15 日に公示され、2011 年 1 月 21 日まで候補の推薦を受け付けました。その結果、理事候補として 7 名、監事候補として 1 名の推薦がありました。推薦を受けた全員が役員候補者選考委員会にて候補者として選考され、2011 年 3 月 22 日までの期間の正会員による投票に付されました。同時に役員選挙候補者選考委員の正会員による審査も行われました。正会員名 930 人中 259 票(約 28%)の投票があり、結果は次の通りでした。

理事選挙(有効投票数 259)

明石 修 (237) 紀 信邦 (240) 柴山 悦哉 (254)
 滝本 宗宏 (241) 立石 孝彰 (239) 丸山 勝久 (239)
 吉岡信和 (237)
 監事選挙 (有効投票 259)
 丸山 宏 (249)
 役員候補者選考委員 不信任票 (有効投票)
 井田 哲雄 (2) 井上 克郎 (0) 佐藤 雅彦 (0) 近山 隆 (0) 中島 秀之 (2)

この結果、理事候補、監事候補全員がそれぞれ理事、監事として選出され、2011 年 4 月 1 日から 2013 年 3 月 31 日までの役員を務めることになりました。また、役員候補者選考委員全員が信任を受けました。

今回は、投票用ハガキにおいて理事候補者名に誤記がありました。「滝本 宗弘」は誤りで、正しくは「滝本 宗宏」です。「滝本 宗弘」に印をつけた投票ハガキは「滝本 宗宏」候補への投票として取り扱いました。ご迷惑をおかけしたことを深くおわびいたします。

なお、この選挙における選挙管理委員会の構成は次の通りでした。

選挙管理委員会

村田 真 (委員長)
 亀山 幸義 河野 健二 権藤 克彦 高橋 和子
 橋田 浩一 廣津 登志夫 胡 振江

第 15 回論文賞および第 3 回解説論文賞

日本ソフトウェア科学会は、第 15 回論文賞および第 3 回解説論文賞をそれぞれ以下に授与することを決定し、第 28 回通常総会において表彰します。

今回の対象論文は、論文賞については、2009 年 2 月から 11 月までに発行された「コンピュータソフトウェア」(第 26 巻)に掲載された研究論文(ソフトウェア論文は対象外)、解説論文賞については、2008 年 1 月から 2009 年 11 月までに発行された「コンピュータソフトウェア」(第 25 巻, 26 巻)に掲載された解説論文です。会員からの推薦受付後、論文賞選定委員会および解説論文賞選定委員会において検討、選定し、理事会で決定しました。

【論文賞】

- (1) 五十嵐 悠紀, 五十嵐 健夫, 鈴木 宏正: あみぐるみのための 3 次元モデリングと製作支援インタフェース, Vol. 26, No. 1 (2009), pp. 51-58

選定理由: 「あみぐるみ」とは毛糸を筒上に編んでいき、中に綿などを詰めてできあがる「ぬいぐるみ」の変種である。「ぬいぐるみ」が布を裁断してそれを張り合わせ

て作るのに対し、「あみぐるみ」の場合には毛糸の編み方によって形状をデザインしていく。本研究においては「あみぐるみ」という題材に着目し、3次元モデリングとインタラクティブな物理シミュレーションを融合して効率的なデザインを支援するモデラーを開発している。きちんとしたアルゴリズムを呈示し、数理モデルの実現とインタフェースという視点から論文をまとめている。この論文のツールが対象としている「あみぐるみ」は、ある種の物理的な制約が必要であり、提案されているようなツールの効果が最もよく現れる対象を選んでいる。モデルに留まらず、編み図を生成して実際の「あみぐるみ」を作る所まで支援し、さらに、子供を対象としたフィールド実験も行っており、実践的なソフトウェアに関する優れた成果をあげている。以上の理由から本論文は本学会の論文賞にふさわしいと判断する。

- (2) 上嶋 祐紀, 住井 英二郎: Java 言語への変換によるポインタ演算の安全な実装方式, Vol. 26, No.1 (2009), pp. 139-154

選定理由: 本論文は、C 言語サブセットのプログラムを安全な Java 言語のプログラムに変換する方式を提案している。プログラミング言語の安全性はバグや攻撃からプログラムやデータを保護するために有用な性質である。一方、C 言語は現在広く普及しているプログラミング言語の一つであるが、安全性が保証されていない。本論文では、安全性の保証されていない C 言語のプログラムを安全な Java プログラムに変換することにより、C プログラムの安全性を保証することを試みている。C 言語から Java 言語への変換にはポインタの扱いなど留意すべき点がいくつかあり、本論文ではその方法が具体的に提示されている。たとえば、C 言語のポインタ演算を Java で安全に模倣するため、ポインタやメモリブロックを表現する Java クラスを導入している。本論文のアプローチは斬新かつ実用的であり、安全性に関する研究の新たな方向性として興味深い。以上の理由から本論文は本学会の論文賞にふさわしいと判断する。

【解説論文賞】

佐々政孝, 滝本宗宏: 静的単一代入形式を用いた最適化 (導入編), Vol. 25, No. 1 (2008), pp. 19-2

滝本宗宏, 佐々政孝: 静的単一代入形式を用いた最適化 (発展編), Vol. 25, No. 1 (2008), pp. 30-46

選定理由: 本解説論文は、コンパイラの目的コード最適化がテーマである。静的単一代入形式 (SSA: Static Single Assignment) を用いる技法を網羅している。SSA は中間表現形式のひとつであり、すべての変数の使用に対してその値を定義 (代入) するプログラム上の場所が 1 箇所に限定されるように変数の名前のつけかえをする。変数の定義・参照関係が単純になるので、最適化が容易になりその処理効率も向上す

る．名前をつけた変数の合流を表現するしくみ（関数）がこの方式のひとつの焦点である．通常の形式から SSA に変換し，そこで最適化を施した後，SSA から通常形式へ逆変換するという処理手順になる．2 編構成の論文の「導入編」で SSA 変換・逆変換が，「発展編」で SSA に対する最適化が詳述されている．両編ともに，わかりやすい図やコード断片を用いて，基本事項が要領よく展開されていて専門外の読者にも興味を喚起すると思われる．以上の理由から本論文は本学会の解説論文賞にふさわしいと判断する．

第 15 回論文賞の選定委員は以下の通りです．

選定委員長 本位田 真一

選定委員 岩崎 英哉 鷗林 尚靖 廣津 登志夫 田中 二郎 山本 章博
結縁 祥治

第 3 回解説論文賞の選定委員は以下の通りです．

選定委員長 鯨坂 恒夫

選定委員 亀山 幸義 栗原 聡 西崎 真也 新田 克己 橋田 浩一

論文賞・ソフトウェア論文賞候補推薦のお願い

日本ソフトウェア科学会は，ソフトウェア科学・工学の発展を奨励することを目的として，論文賞・解説論文賞・ソフトウェア論文賞を設けています．本年度は，論文賞とソフトウェア論文賞に関して，会員各位からの候補論文の推薦を以下の要領で受け付けます．ふるってご推薦ください．

【対象】論文賞の対象は，2010 年に発行された「コンピュータソフトウェア」(第 27 巻)に掲載された研究論文(第 1 ページ脚注に [論文] または [研究論文] の表示のあるもの)．ソフトウェア論文賞の対象は，2009 年～2010 年に発行された「コンピュータソフトウェア」(第 26～27 巻)に掲載されたソフトウェア論文(第 1 ページ脚注に [ソフトウェア論文] の表示のあるもの)．

【表彰の方法】論文賞選定委員会およびソフトウェア論文賞選定委員会において審査の上，優秀な論文・記事の著者に賞状と副賞(5 万円)を授ける．著者が複数人の場合は，賞状は各人に授与する．ただし，論文賞の受賞代表者は本学会の正会員または学生会員であることを要する．表彰の件数は，論文賞は 2 件以内，ソフトウェア論文賞は 1 件程度とする．

【推薦の方法】自薦または他薦とする．

【提出書類】A4 用紙に論文題目，論文掲載巻・号・年，著者氏名，推薦理由，推薦者の氏名・所属・連絡先を記載した推薦書を提出する．推薦者と被推薦者との関係について特記事項がある場合は説明を付す．

【推薦書類提出締切】2011 年 6 月 30 日

【推薦書類提出先】〒113-0032 東京都文京区弥生 2-14-16 学会センタービル内日本ソフ

トウェア科学会事務局

日本ソフトウェア科学会第 28 回大会開催案内・参加募集

日本ソフトウェア科学会第 28 回大会を次の要領で開催します．

日 時 2011 年 9 月 27 日 (火) ～ 29 日 (木)

併設イベントの日程は未定です．

会 場 沖縄県那覇市: 沖縄産業支援センター・沖縄県市町村自治会館

大会委員長 遠藤 聡志 (琉球大学)

運営委員長 河野 真治 (琉球大学)

プログラム委員長 八杉 昌宏 (京都大学)

熱い企画満載です！

今年の大会では，招待講演，一般の登壇発表，デモ・ポスター発表，併設のチュートリアルはもちろん，昨年スタートした以下の新企画の活躍の場をアレンジし，企画満載の熱い大会を目指します．

研究会セッション 研究会と連携して企画を行うことで，発表者にも聴講者にも有益で楽しめるセッションを実現しました．

ソフトウェア論文セッション 先進的なアイデアを実現したソフトウェアについての成果発表の場を提供しました．

学生セッション 学生を対象に広く発表を募集し，これからのソフトウェア研究を皆で考えました．また，学生奨励賞を設けました．これとは別に，一般の登壇発表の学生を対象とする学生奨励賞も設けました．

特別講演 論文賞受賞論文やトップコンファレンス採択論文の著者による講演を実現しました．

詳しい情報については随時，大会ホームページ

<http://jsst11.kuis.kyoto-u.ac.jp/>

に掲載します．奮ってご参加ください．

一般の登壇発表，デモ・ポスター発表について

登壇発表，デモ・ポスター発表の申込要領は以下の通りです．特に優秀な登壇発表に対しては「高橋奨励賞」(故高橋秀俊先生にちなむ賞) が与えられます．さらに登壇発表の予稿は学会誌へ同時投稿できます．査読の迅速化を特徴とするレター論文が選択できる他，昨年から大会発表で得られたコメントを反映可能な大会後投稿の試みもスタートしています．

対象分野 ソフトウェア科学全般

登壇発表申込 登壇発表者は日本ソフトウェア科学会の正会員または学生会員に限ります。ただし、発表申込時に入会手続き中である場合も含みます。

登壇発表申込締切 6月24日(金) 必着

予稿原稿締切 8月8日(月) 必着

デモ・ポスター発表申込 ポスター掲示に加えて、ノート PC 等を持ち込んでのデモも可能です。登壇発表と同じ内容でのデモ・ポスター発表も歓迎します。発表者の少なくとも1名が日本ソフトウェア科学会の正会員または学生会員であることが必要です。ただし、発表申込時に入会手続き中である場合も含みます。

デモ・ポスター発表申込締切 予稿のない場合は8月19日(金) 必着、予稿のある場合は登壇発表と同じです。

2011 年度研究会活動予定

日本ソフトウェア科学会では、今年度以下のような活動を予定しております。詳細は各研究会の主旨、もしくは連絡先までお問い合わせください。また、最新情報は学会の Web ページ <http://www.jsst.or.jp/> に随時掲載いたします。

【ソフトウェアシステム (SYS) 研究会】

ソフトウェアに関する先端的な学術研究と実際のソフトウェア開発における最新の研究成果の発表、新たな研究課題についての討論やアイデア交換をおこなう場を設けソフトウェアシステムの発展に寄与することを目的とする。

主査 廣津 登志夫 (法政大学, sc-chair@spa.jsst.or.jp)

活動予定

- ・ 休止・廃止を含めて検討中。

【プログラミング論 (PPL) 研究会】

プログラミング言語とプログラミング方法論の理論および実践に関する研究討論の場を提供することを目的とする。

主査 五十嵐 淳 (京都大学, igarashi@kuis.kyoto-u.ac.jp)

活動予定

- ・ 第9回プログラミングおよびプログラミング言語に関するサマースクール (PPL Summer School 2011)
日時: 2011 年 9 月 / 場所: 沖縄産業支援センター
日本ソフトウェア科学会大会に併設。
- ・ 第14回プログラミングおよびプログラミング言語に関するワークショップ (PPL 2012)
日時: 2012 年 3 月

プログラム委員長：中澤 巧爾 (京都大学)，前田 敦司 (筑波大学)

実行委員長：鵜川 始陽 (電気通信大学)

- ・「コンピュータソフトウェア」誌へ PPL2011 推薦論文を提案．

【マルチ・エージェントと協調計算 (MACC) 研究会】

分散環境におけるマルチエージェントシステムと協調計算機構の構築を目的とした研究者の議論の場を提供することを目的とする．

主査 大沢 英一 (公立はこだて未来大学, osawa@fun.ac.jp)

活動予定

- ・ 合同エージェントワークショップ&シンポジウム 2011 (JAWS2011)

日程：2011 年 10 月～11 月 (2 泊 3 日合宿形式) / 場所：那須 高原

プログラム委員長：和泉 潔 (東京大学)

【インタラクティブシステムとソフトウェア (ISS) 研究会】

人間と計算機との様々なインタラクションの研究者が集い、インタラクティブシステムの構成原理/構成法、ソフトウェア技術について議論することを目的とする．

主査 後藤 真孝 (産総研, [m.goto\[at\]aist.go.jp](mailto:m.goto[at]aist.go.jp))

活動予定

- ・ 第 19 回インタラクティブシステムとソフトウェアに関するワークショップ

Workshop on Interactive Systems and Software (WISS 2011)

日程：2011 年 12 月上旬を予定 (2 泊 3 日合宿形式) / 場所：未定

プログラム委員長：後藤 真孝 (産総研) [m.goto\[at\]aist.go.jp](mailto:m.goto[at]aist.go.jp)

運営委員長：中村 聡史 (京大) [nakamura\[at\]dl.kuis.kyoto-u.ac.jp](mailto:nakamura[at]dl.kuis.kyoto-u.ac.jp)

- ・ 情報処理学会インタラクション 2012 に協賛．

【ソフトウェア工学の基礎 (FOSE) 研究会】

情報技術の普及がソフトウェアの適用範囲をますます広げていく今、ソフトウェアを社会基盤となる知的資産として活用するため、ソフトウェア工学はさらに格段の進歩をとげなければならない．この挑戦に向けてさまざまな基礎技術確立することをめざし、研究者・技術者の議論の場を提供する．

主査 杉山 安洋 (日本大学, sugiyama@ce.nihon-u.ac.jp)

活動予定

- ・ 第 18 回 ソフトウェア工学の基礎ワークショップ FOSE 2011

日程：2011 年 11 月 24 日 (木) - 26 日 (土) / 場所：海扇閣 (浅虫温泉)

プログラム委員長：門田 暁人 (奈良先端科学技術大学院大学)，

上野秀剛 (奈良工業高等専門学校)

【インターネットテクノロジー (ITECH) 研究会】

インターネットを中心とするコンピュータ技術, ネットワーク技術およびこれらの運用やアプリケーションに関する研究, 開発, 討議を行なう場を設け, わが国におけるネットワーク技術の発展に寄与することを目的とする.

主査 明石 修 (NTT 未来ねっと研究所)

活動予定

- ・ 第 12 回インターネットテクノロジーワークショップ (WIT2011)
日程: 2011 年 6 月 2 日 ~ 3 日 / 場所: 北海道大学 百年記念会館
運営委員長: 和泉 順子 (奈良先端科学技術大学院大学)
プログラム委員長: 寺岡 文男 (慶應義塾大学)
URL: <http://wit.jssst.or.jp/2011/>
- ・ インターネットコンファレンス 2011 (IC2011)
日程・場所: 未定
実行委員長・プログラム委員長: 未定
URL: <http://www.internetconference.org/>
- ・ 「コンピュータソフトウェア」の「ネットワーク技術」特集号
アブストラクト締切: 2011 年 6 月 8 日
論文投稿締切: 2011 年 6 月 15 日
刊行: 2012 年 5 月号

【ディペンダブルシステム (DSW) 研究会】

高信頼情報処理システムを開発するための技術に関する先導研究を推進する.

主査 河野 健二 (慶應義塾大学, kono@ics.keio.ac.jp)

幹事 前田 俊行 (東京大学)

幹事 杉木 章義 (筑波大学)

活動予定

- ・ 第 7 回ディペンダブルシステムシンポジウム & 第 9 回ディペンダブルシステムワークショップ
日程: 2011 年 7 月頃 / 場所: 未定
幹事: 前田 俊行 (東京大学), 水野 修 (京都工芸繊維大学)
- ・ 日本ソフトウェア科学会第 28 回大会 ディペンダブルシステム (DSW) 研究会セッション
日時: 2011 年 9 月 / 場所: 沖縄産業支援センター
幹事: 杉木 章義 (筑波大学)

【ネットワークが創発する知能 (EIN) 研究会】

「ネットワークダイナミクス」と「ネットワークが創発する知能」をキーワードとして、コンピュータサイエンス、物理学、化学、生物学、経済学、社会学など様々な分野の研究者の交流の場を提供するとともに、当分野における高いアクティビティの発揮を目指す。

主査 中島 秀之 (公立はこだて未来大学, h.nakashima@fun.ac.jp)

幹事 栗原 聡 (大阪大学)

村田 剛志 (国立情報学研究所)

活動予定**・ JWEIN-Summer ワークショップ**

日程：2011 年 9 月 5 日 (月)～7 日 (水) / 場所：慶應義塾大学 日吉キャンパス 来往舎

合同研究会委員長：辻 竜平 (信州大学)

JWEIN プログラム委員長：栗原 聡 (大阪大学)

・ JWEIN-秋合宿

日程：12 月上旬予定 / 場所：未定

プログラム委員長：未定

20 名程度の合宿形式

協 賛 イ ベ ン ト**第 22 回 IEEE ソフトウェア信頼性工学国際シンポジウムの開催**

高信頼化ソフトウェアに関するトップカンファレンスである IEEE ISSRE が下記の予定で開催されます。詳細についてはホームページ (<http://2011.issre.net/>) をご覧ください。

第 22 回 IEEE ソフトウェア信頼性工学国際シンポジウム (ISSRE2011)

2011 年 11 月 14 日 (月)～17 日 (木)

会場：東京国際交流会館プラザ平成

締切：

ワークショップ提案 2011/4/15

研究論文概要 2011/5/1

研究論文 2011/5/15

チュートリアル提案 2011/5/30

産業論文・FA・学生論文 2011/8/1

主催：

IEEE Computer Society, IEEE Reliability Society,

ソフトウェアテスト技術振興協会 (ASTER)

問合先：土肥 正（広島大学）dohi@rel.hiroshima-u.ac.jp

以上